**市政トピックス**

**●新しい市役所本庁舎とまちのにぎわいを考えました**

　　4月27日、「市役所本庁舎建設市民説明会・にぎわい交流シンポジウム」を開催し、約80人の参加者と共に、本庁舎建設をひとつの契機としたまちづくりについて話し合いました。

　市民説明会では、本庁舎建設事業の平面図案を示し、現在検討している各室の配置と機能などの説明や、市役所周辺の整備事業の情報提供をしました。参加者からは、駐車場を含めた敷地利用や、新庁舎と東庁舎の連携についての意見などが出されました。

　シンポジウムでは、～ひと育ち・まち育ち～地域社会デザイン・ラボ代表の遠藤智栄氏をコーディネーターに迎え、まちづくりの分野で活躍する3人の市民パネリストとのトークセッションを行いました。

　トークセッションでは、「大崎市を体現する施設としての市役所を考える」「大崎市をだれがどう担うかを考える」「エリアのにぎわい、大崎の活性化を考えよう」の3つのテーマで話し合いました。パネリストからは、まち歩きを楽しめる環境の整備や、学生・若者が活躍できる場の必要性、各地域のまちづくり活動を、点から線へつなげる役割を新庁舎に期待するなど、にぎわいづくりの工夫やアイデアが出されました。

　今後も、市民の皆さんからいただいた「声」を生かしながら、本庁舎の設計業務や、まちのにぎわい創出に取り組んでいきます。

写真：トークで会場を盛り上げる遠藤智栄氏（左）とパネリストの皆さん

**●交通事故防止のため「春の交通安全県民総ぐるみ運動」出動式を行いました**

　5月10日、「春の交通安全県民総ぐるみ運動」の出動式が市役所本庁舎前駐車場で開催されました。

　本年は、統一地方選挙の関係で一カ月ほど遅れての総ぐるみ運動開始となりました。

　この日は、警察、交通安全協会など関係機関・団体の皆さん約200人が集まり、「子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止」「飲酒運転の根絶」などを運動の重点に掲げ、交通安全運動の推進を確認しあいました。

　出動式に引き続き、古川大宮の国道108号交差点で行われた街頭キャンペーンでは、通勤・通学途中の皆さんにチラシを配りながら、安全運転と自転車利用のマナーを呼びかけました。

　市内での交通死亡事故は、本年に入ってから発生していません（令和元年5月15日現在）。

　一人一人が交通ルールを守って、交通事故を防止していきましょう。

写真1：出動式を終え、パトロールに出動　する警察車両

写真2：安全運転を呼びかける大崎市　交通安全母の会の皆さん

**●2019　5月の主な出来事**

|  |  |
| --- | --- |
| 1日 | ●夏の軽装勤務（クールビズ）開始（9月30日まで）●伊達な姉妹都市 味めぐり「宇和島＆大崎フェア」（千葉県成田市） |
| 2日 | ●鳴子ダムすだれ放流 |
| 8日 | ●鳴子放牧場開牧式 |
| 10日 | ●春の交通安全県民総ぐるみ運動出動式 |
| 11日 | ●三本木春祭り（稚児行列・交通安全パレード）●第23回パークゴルフ全国交流大会「さくらカップ」 |
| 21日 | ●トランスイート四季島受け入れ大崎市実行委員会総会 |
| 25日 | ●姉妹都市アメリカ合衆国ジョージア州ダブリン市長表敬 |
| 26日 | ●第13回東北水防技術競技大会（福島県郡山市） |

写真：緒絶川沿いに咲く藤の花が、たくさんの観光客を歓迎しました

**お・ら・ほ・の・ま・ち**

**「令和」記念に早乙女姿の田植え**

　5月12日、古川飯川地区にある飯川熊野神社で「御田植祭」が開催され、早乙女衣装の女性が手植えに励みました。

　御田植祭は五穀豊饒を願う神事で、今回は天皇陛下即位と「令和」の幕開けを記念して行われました。

　早乙女の16人は、ぬかるんで思うように進めない足元に苦戦しつつも、地域の人に声援を送られながら、笑い声を絶やさず苗を植えていました。

　始めは周囲で見守っていた子どもたちや男性も、笑い声に誘われるように、裸足になったり裾をまくりあげたりして、徐々に手植えに参加。最終的に、地域一体で手植えに親しみ、令和の豊作を願う機会となりました。

写真1：慣れない手植えも、大勢ですると楽しさが倍増！

写真2：かすりの着物の早乙女衣装

**春色のパノラマに笑顔咲く**

　今年で9回目となる菜の花と食の祭典「おおさき鳴子温泉菜の花フェスティバル」が4月28日、鳴子温泉川渡河川敷で開催されました。

　多くの来場者が、穏やかな春の風に揺られ、一面に咲く菜の花畑を和やかな表情で歩いたり、写真を撮ったりして満喫していました。

　会場では、なる子ちゃんこ鍋などに舌鼓を打つ人や、地元野菜やしそ巻など地場産品を購入する人たちで活気にあふれていました。また、消防車のクレーン試乗体験やひつじとのふれあい体験など、初めての光景に子どもたちは興味津々に笑顔を見せ楽しんでいました。

写真1：菜の花畑の前で歌と読み聞かせを披露するアーティスト。

**かわいらしい姿で交通安全を呼びかけ**

　5月11日、恒例の「三本木春まつり 交通安全パレード・稚児行列」が行われました。

　稚児行列には、三本木ひまわり園に通う4～5歳の児童42人が鮮やかな衣装をまとい、三本木総合支所から大崎商工会三本木支所まで、およそ2㎞を練り歩きました。

　稚児行列の前後には、三本木交通安全ボランティアや商工会の皆さんが隊列を組み、総勢200人もの参加者が、三本木地域の交通安全を呼びかけました。

写真：お父さん、お母さんに手を引かれながら、元気よく行進しました

**地域発　お・ら・ほ・の・ま・ち**

自分の住む地域を「おらほ」というと，親しみや愛着を感じませんか。

おらほの地域づくり，おらほの隠れた名所，おらほのおいしい特産品，おらほの伝統のまつり，おらほのイベント・・・。

そんな，愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

**●ダブリン市と大崎の交流の輪**

　4月1日から7日、姉妹都市の米国ジョージア州ダブリン市から、13人の訪問団が市を訪れ、ホームステイや市内観光などで市民と交流を深めました。

　ダブリン市と旧三本木町は、平成10年に姉妹都市を締結して以来、互いに訪問し合い、交流が続いています。ダブリン市から訪れた学生は、「日本刀の見学では、刃が鋭く輝いていて、興味を持った。日本に家族ができたようで離れるのがさびしい。また来たい」と話していました。

**●大崎産食材で日本一のジェラート**

　千葉県で開催された「第4回ジェラートマエストロコンテスト」（日本ジェラート協会主催）で、大澤英里子さん（鳴子温泉地域）が見事優勝を果たしました。

　大澤さんは、鳴子温泉川渡地区とあ・ら・伊達な道の駅で野菜ジェラート専門店「なるこりん」を経営しています。店舗では、大崎産の野菜や岩出山の麹、鳴子の温泉水を使ったシロップなど、大崎の豊富な食材や資源を活用したジェラートが提供されています。

　今回の優勝作品は、大崎産の桃やルバーブ、第4のチョコレートとして話題の「ルビーチョコレート」を使い、母親の優しさと感謝の気持ちを表現したそうです。

　大澤さんは、「ジェラートを通して、大崎の魅力を発信していきたい」と話していました。

**●伝統400年 にぎわう古川八百屋市**　4月7日、春の伝統の風物詩、古川八百屋市が開幕しました。暖かな春の日差しの中、古川前田町の「烏堂熊野神社」は、日曜日ということもあり、初日から大勢の人でにぎわいました。

　境内には約20の出店が立ち並び、農産物、漬物、苗木などが販売されました。訪れた人たちは、じっくりと品物を見比べたり、出店者との会話を楽しみながら買い物をしていました。

　八百屋市は6月27日まで、一の位に3と7のつく日に開催されます。これから暖かくなる季節、散歩がてらや、友人、家族と一緒に出かけてみませんか。